

ドクター+7



ニッポン
ドクター和の
臨終区巻

長尾和宏(ながお・ずひろ) 医学博士。京医大卒業後、大阪大
二庫内科入局。1995年、
大阪府豊中市で長尾クリ
ックを開業。外来診療を
らる「総合診療を指す
近著「痛くない死に方」
「ずれもベストセラ一
西国際大学客員教授。

「たるんじやったな、みんな」。毎日新聞社特別編集委員で、日曜朝の『サンデーモーニング』(TBS系)で長年にわたり頼れる意見番だった岸井成格(しげた)さん。この春、お見舞いに行った関口宏さんが「何か言いたいことはないか?」と尋ねた際、一生懸命に声に出して言ったのが、冒頭の言葉だったそうです。

60 毎日新聞社特別編集委員 岸井成格



「たるんじやったな」

混迷する政界に投げかけた

「顔を尋常ではない」と言われたことを機に検査を受けてがんがわかったそうです。手術は無事成功し、3カ月後には番組に復帰。それまでの人生では仕事以外には無頓着だったそうですが、それからは定期的に健康診断を受けるなど、生

とを公表しました。大学時代の仲間が集まりに参加したとき、「顔色が尋常ではない」と言われたことを機に検査を受けてがんがわかったそうです。

手術は無事成功し、3カ月後には番組に復帰。それまでの人生では仕事以外には無頓着だったそうですが、それからは定期的に健康診断を受けるなど、生

10年後に岸井さんの体内にできたがんは、大腸がんではなく、肺腺がんでした。これはがんの再発や転移ではなく、新たにできたがんだったと推測します。同じ人の異なる部位にがんが発生することを「重複がん」と呼ぶあるいは「多重がん」と呼びます。長寿大国であるわが国において、重複がんは決して珍しくないことではありません。私の患者さんにも4つの臓器にがんができた方がおられました。

それから10年が経過した昨秋、岸井さんは再び番組を休業しました。10月に復帰された際、関口さんが「帽子をかぶって岸井さんが復帰されました」と紹介すると、「がんの治療です」と入院したもんですから。放射線と抗がん剤でいろいろな副作用あって」と話しました。げつそりとされていました。

家で中でも帽子をかぶっている男性も実は多くいます。男であれ女であれ、ふだん帽子をかぶっていなかった人が帽子姿でいる時は、のっぴきならない事情があるはず。触れずにおくのが大人の流儀というものでしょう。